

6 環境の保全と創造のための基盤づくり

6 - 1 環境情報の総合的な収集・提供体制の確立

1 環境情報センター(企画課)

富士山科学研究所の環境情報センターは、身近な問題から地球環境問題にわたる環境情報や地域性に配慮した環境情報を提供しています。

本センターでは、環境に関する図書・DVD等を年々充実させていることに加え、コンピュータネットワークの整備等により、これら環境情報の提供の際の利便性の向上を図っています。さらに「情報センターだより」、「メールマガジン」の発行等により、研究成果ほか研究所の各種活動の紹介も行っています。



環境情報センター

環境情報センター施設概要

閲覧時間 午前9時～午後5時(休館日:年末年始・蔵書点検期間・電気設備点検・雪による臨時休館)

図書閲覧コーナー 図書の閲覧、調査研究ができます。図書は館外貸出も受けられます。また、直接来所しなくても、最寄りの図書館を通して研究所の資料の検索・借り受けができます。

ビデオ・DVDコーナー 環境に関するDVD等を見ることができます。

パソコンコーナー 環境情報の検索やCD-ROMを見ることができます。

バードウォッチングコーナー・ブラウジングコーナー 野鳥の観察や、雑誌の閲覧ができます。



平成26年度発行「ニューズレター」

環境情報センター蔵書数等(H27.3.31現在)			平成26年度利用実績				
図書	和書	一般書	13,090 冊	環境情報センター利用者数		5,311 人	
		児童書	3,938 冊	図書個人貸出	人数	627 人	
		参考図書	1,986 冊		図書貸出数	1,666 冊	
		富士山図書	650 冊		ビデオ貸出数	3 本	
		行政図書	596 冊		DVD貸出数	87 本	
		小計	20,260 冊	図書相互貸出	貸出	件数	4 件
洋書	513 冊	冊数	4 冊				
合計	20,773 冊	借受	件数		5 件		
		冊数	5 冊				
AV資料	ビデオ	584 点	図書団体貸出		件数	9 件	
	DVD(ROM・ビデオ)	202 点	冊数	248 冊			
	CD-ROM	330 点	ビデオ利用		人数	24 人	
	合計	1,116 点	本数	17 本			
逐次刊行物	和雑誌	一般雑誌	81 タイトル	DVD利用		人数	82 人
		学術雑誌	102 タイトル	本数	42 本		
		紀要	199 タイトル	CD-ROM利用		枚数	0 枚
		行政資料	254 タイトル	レファレンス(調査相談)			73 件
		小計	636 タイトル	(CD-ROM利用:H22.9に終了)			
	洋雑誌	150 タイトル	新学習用PC「しえん君」 利用人数(H22.10から提供)			406 人	
合計	786 タイトル						
その他	地図等	166 点					

なお、環境教室等の参加者を含む富士山科学研究所全体の来館者数は次のとおりです。

区 分	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	計
一 般	9,121人	7,832人	4,108人	1,803人	22,864人
団 体	5,548人	4,760人	3,781人	642人	14,731人
計	14,669人	12,592人	7,889人	2,445人	37,595人

注)一般=個人・家族等、団体=学校・各種団体等(事前に連絡のない学校・各集団体のグループを含む)

2 提供体制の確立(森林環境総務課)

(1) 県ホームページ

環境保全活動を広めていくためには、県民などに対して広く環境に関する情報の提供を行う必要があります。このため、平成10年11月からインターネットを利用し、「やまなしの環境」としてホームページを開設しました。また、平成21年2月に県ホームページはリニューアルを行い、探しやすさや使いやすさを優先したカテゴリ形式となり、「やまなしの森林・環境」のページもそれに伴いリニューアルされました。ホームページの構成は次の3つのジャンルで構成されています。

『やまなしの森林』

山梨県の森林・林業に関する計画・イベント情報など、次の項目ごとに構成しています。

やまなし森林・林業再生ビジョン

荒廃した森林の整備をはじめ、森林資源の有効利用、林業・木材産業の振興や雇用の創出による山村地域の活性化など本県の森林や林業・木材産業の再生を目指し平成24年3月に策定した、「やまなし森林・林業再生ビジョン」を紹介しています。

リーフレット「やまなしの森林」

山梨県の森林・林業・木材産業の概要を紹介するリーフレット「やまなしの森林」を掲載しています。

関連する計画等

山梨県が定めた森林に関連する計画や方針等を紹介しています。

- ・地域森林計画
- ・県有林管理計画
- ・森林セラピー推進指針
- ・山梨県緑化計画

やまなし森のイベント情報

「森林環境教育」や「木育」など森に関するさまざまなイベントを紹介しています。

森林公園だより（県民の森、武田の杜、金川の森）

森林と親んでもらう森林公園の紹介と活動を紹介します。

森林文化の森

人と森林との関わり合いを実現する場所、自然への回帰を目指す場所として整備計画をまとめました。

「森林文化の森」というものが、何を目的とし、何をしているのかをお伝えしています。

やまなし森づくりコミッション

森づくり活動フィールド・森林づくりイベント・指導者などの紹介や、活動計画や企画の提案など、森づくり活動を様々な形で支援します。

山の日宣言

8月8日は、やまなし「山の日」。「山の日宣言」の全文や、各種記念イベントの情報を提供しています。

FSC森林管理認証

県有林は、持続可能な森林経営をさらに推進していくためにFSC森林管理認証を取得、その取組を紹介します。

山梨県森林審議会

「山梨県森林審議会」の会議録を公表しています。

恩賜林について

3月11日は恩賜林記念日。恩賜林の沿革や恩賜林記念式典などを紹介しています。

林業・木材産業情報リンク集

林業・木材産業に関するリンク集です。

山梨県林業統計書

山梨県の林業統計データを掲載しています。

『やまなしの環境』

山梨県の環境計画、対策や、環境団体等の情報など次の項目ごとに構成しています。

山梨環境基本条例

平成16年4月1日に施行した「山梨県環境基本条例」です。

山梨県環境基本計画

「山梨県環境基本条例」で定めた環境の保全及び創造に関する施策の方向等を明らかにした、環境施策に関する基本計画です(平成26年3月、「第2次山梨県環境基本計画」を策定しました)。

関連する計画等

山梨県が定めた環境に関連する計画や方針等を紹介しています。

・山梨県地球温暖化対策実行計画 ・山梨県生活排水処理施設整備構想 ・第2次山梨県廃棄物総合計画
リサイクル・廃棄物処理

山梨県廃棄物処理計画、廃棄物最終処分場、一般廃棄物、産業廃棄物、PCB廃棄物などに関する情報です。

大気・水質

大気常時監視、植物影響調査、公共用水域水質測定及び水生生物による水質調査結果について紹介しています。

山梨版レッドデータブック

山梨県レッドデータを紹介しています。

環境アセスメント

大規模な事業実施が周囲の環境にどのように影響を及ぼすのかについて、事業者自らが調査、予測、評価を行い、その結果を公表して、県民や市町村長等が意見を出し合い、環境を守っていく制度です。

富士山の環境保全

富士山の環境を理解し、保護していくための各種活動に関する情報収集・提供やコーディネート、活動に参加する人々のネットワーク化などに取り組む、富士山ボランティアセンターのご案内です。

地球温暖化対策

平成20年12月に策定した「山梨県地球温暖化対策条例」を紹介しています。

環境保全審議会

「環境保全審議会」の会議録等を公表しています。

やまなし環境マネジメントシステム

山梨県の環境マネジメントシステムです。

環境白書「やまなしの環境」

山梨県における環境の現状とその保全に向けた対策をまとめた環境白書「やまなしの環境」(本書)の各年度版を紹介しています。

環境NPO・団体等の情報

「やまなしNPO情報ネット」では、県内の活動しているボランティア・NPOの情報などを提供しています。

環境関係例規集

山梨県の環境に関する条例等を掲載した総合サイトです。

『やまなし水政策ビジョン』

本県の水政策に関する総合的な指針である「やまなし水政策ビジョン」を掲載しています。

やまなし水政策ビジョン

「持続可能な水循環社会を目指して」を政策目標として定め、この目標を実現するために、「育水と保全～健全な水循環の維持～」、「魅力発信と活用～水を活かした地域・産業の振興～」、「連携と相互理解～水を通じた交流の活性化～」、「暮らしと防災～安全な水の確保と暮らしを守る治水の推進～」の4つの基本方針に基づき、健全な水循環系の構築と水を活かした地域振興を図るための指針として、平成25年6月に策定しました(従来の「山梨県水政策基本方針」は、「やまなし水政策ビジョン」の内容として引き継がれました)。

(2) 環境情報提供事業(環境ライブラリー事業)(森林環境総務課)

県民が環境問題に関心を持ち、実践活動に参加し、環境に配慮した生活スタイルへの転換が進むよう、広く環境に関する情報を発信することを目的に、「環境情報コーナー」の設置、パネルやビデオテープの貸出しを充実させ、「ライブラリー事業」として実施しています。

内容(平成26年度実施内容)

・パネル等の貸出し

各地で行われるイベント等へパネル、環境にやさしい商品等を貸出しました。

・移動情報コーナー

公共機関、商業施設など人の集まる場所にパネル、環境にやさしい商品等を展示しました(貸出を含めて7か所)。

・ビデオライブラリー

啓発用ビデオのストックを充実し、広く県民の環境学習に活用してもらいました。

・パンフレットの提供

各種のイベントや、学習活動などに広く利用してもらうため、環境関係の各種のパンフレット、チラシ等をストックし、提供しました。

6 - 2 環境モニタリング・環境科学研究の推進

1 主な環境モニタリングの内容(大気水質保全課)

県が実施する主な環境モニタリングの内容は、次のとおりです。

(1)大気汚染常時監視

「大気汚染防止法」に基づき大気汚染の状況を把握するため、一般環境大気測定局10局及び自動車排出ガス測定局2局の合計12局で窒素酸化物や浮遊粒子状物質等による汚染状況を常時監視している。
また、ベンゼン、トリクロロエチレン等の有害大気汚染物質について5地点においてモニタリング調査を実施している。

(2)公共用水域及び地下水の水質の常時監視

河川、湖沼の水質の状況を定期的に把握し、各種水質保全施策の基礎資料とするため、53地点においてBOD、CODなどの環境基準項目等の水質調査を実施。また地下水の状況を定期的に把握するため、概況調査を行い、過去の調査により環境基準を超過等し、継続的に監視するためモニタリング調査を実施する。

(3)ダイオキシン類の調査

ダイオキシン類による一般環境中の汚染状況を把握するため、大気3地点、公共用水域7地点、地下水8地点、土壌中6地点の調査を実施。

(4)騒音・振動の調査

幹線道路沿道地域の生活環境の保全を図るため、自動車騒音の常時監視を行う。

(5)地盤沈下の調査

地盤沈下を未然に防止するため、一級水準測量調査や地下水位観測を行い地盤沈下の状況を把握する。

大気汚染常時監視、公共用水域及び地下水の水質の常時監視、ダイオキシン類の調査、騒音・振動及び地盤沈下に係る調査結果については、「2 安心・安全で快適な生活環境づくり」及び資料編に掲載しました。

2 富士山科学研究の推進

(1) 富士山科学研究所の取り組み(企画課)

富士山科学研究所は、本県の将来を見据え、予見的、予防的な視点に立った環境行政の展開を支援することを基本として、平成9年4月に開所しました。

研究活動は、「自然環境研究部」、「環境共生研究部」及び「火山防災研究部」の各研究部門において、富士山の自然特性の解明と保存管理や人と自然が調和した地域の実現と富士山の適正利用、富士山防災対策などの研究に取り組む「富士山研究」、研究者が地域環境について基礎的な研究として取り組む「基盤研究」、並びに総合理工学研究機構が統括する領域横断的な共同研究や緊急性の高い行政課題に対応するために取り組む「特別研究」などを進めており、その成果を着実に積み重ねてきています。主な研究活動の状況は次のとおりです。

区分	研究テーマ	研究期間
富士山研究	リモートセンシングと地上探査を用いた富士山森林限界の広域的構造と動態に関する研究	H 24 ~ 28
	環境の変化が急性高山病に及ぼす影響及び急性高山病と血液生化学的指標との関連	H 26 ~ 28
	急性高山病の要因を脳循環応答の面から検討する～富士登山の安全確立に向けて～	H 25 ~ 27
	富士山火山防災のための火山学的研究 - 噴火履歴とそのシミュレーション -	H 26 ~ 29
基盤研究	遷移過程における半自然草地の種多様性と機能群の空間分布に関する研究	H 22 ~ 26
	富士北麓の蝶類群集の定量的モニタリングによる温暖化影響と衰退種特性の解明	H 24 ~ 28
	バナジウムの中性脂肪増加抑制作用を安全に効率よく利用するための基礎的研究	H 25 ~ 27
	地域特性を考慮した自然公園の空間的利用区分に関する研究	H 24 ~ 27
	衛星データによる土地被覆情報把握の高度化	H 24 ~ 26
	富士五湖湖畔域における特定外来植物アレチウリ(<i>Sicyos angulatus</i> L.)の分布と侵入予測に関する研究	H 24 ~ 26
	富士五湖・湖底堆積物の有機地球化学分析による自然環境変遷史の復元	H 25 ~ 27
	青木ヶ原周辺の植生構造と植生分布の広域解析に関する予備的研究	H 25 ~ 26
	富士山五合目付近の外来植物の分布の現状把握に関する研究	H 26 ~ 27
	山梨県における富士山への視点場の研究	H 26 ~ 28
富士山周辺における非熟練ボランティアの野外活動の安全確保に関する研究	H 26 ~ 28	
特別研究	富士山におけるニホンジカの個体群動態と個体数管理に向けた行動学的特性	H 25 ~ 27
	富士五湖(特に河口湖)の水質浄化に関する研究 - 湖底堆積物の物理的および科学的性状の把握 -	H 25 ~ 27
	甲府盆地地域の夏季暑熱環境の実態とヒートアイランド現象の緩和要因についての研究	H 22 ~ 26
	山梨のジオ情報を活用した地域環境特性に関する研究	H 24 ~ 28
	山梨県の山間地域における定住の状態と環境変化の関連の総合的な研究	H 24 ~ 27
	地球温暖化が農林水産業に及ぼす影響の評価と高度対策技術の開発に関する研究	H 19 ~ 26
	都市近郊の里山林における「森の癒し機能」の効果的な発揮に関する研究	H 24 ~ 26
	新たな知見、技術を活用する緑の現況調査、緑化計画と緑化事業の総合的研究	H 25 ~ 27

(2) 森林総合研究所(森林環境総務課)

森林総合研究所は、昭和10年に林業試験場として設立され、その後、林業研修所、林産事務所、林木育種場等を統合した林業技術センターを経て、平成6年から山梨県森林総合研究所として、森林、林業、林産業に対する新たな時代の要請に対応しています。

森林の持つ環境保全や木材生産をはじめとする多面的機能をより高度に発揮させるための調査研究を行うとともに、再生可能資源である木材やきのこ類をはじめとする森林副産物の有効活用技術、効率的な木材生産作業システムの確立、木質バイオマスの有効活用技術の開発に取り組むなど、幅広い行政課題に対応しています。試験研究活動の状況は次のとおりです。

研究目標	部門	研究テーマ	期間
森林資源の造成と管理技術の確立	育林・育種	カラマツコンテナ苗の生産手法の確立	H26～29
		希少植物等の遺伝資源の増殖・保存技術の確立	H26～30
		ヒノキ花粉症対策種苗の生産手法の確立	H22～26
森林環境保全技術の確立	森林保護	ニホンジカの森林生態系に及ぼす影響と適切な管理方法の開発	H22～26
		ニホンジカの新しい捕獲技術の適用性試験と改良	H25～28
		日本各地でのシカによる植生への影響度を決定する要因の解明	H26～28
	環境保全	ニホンジカ影響下における針葉樹人工林の針広混交林への転換技術の開発	H24～27
		治山林道事業における生物多様性に配慮した緑化工指針の作成	H24～26
		持続的な生態的森林管理における希少種管理支援ツールの開発	H25～29
		レンゲツツジなどにより構成される半自然草原群落の保全管理手法の検討 甘利山における事例研究	H26～28
		「高山に登るニホンジカ」にどのように対処するか？	H25～27
森林資源活用による活性化	特用林産	タケ資源の有効利用に関する研究	H24～26
		新バイオマーカーを利用した山梨県の有用植物等資源の探索と活用	H26～28
	木材加工	針葉樹構造用製材の効率的な品質管理技術の開発	H24～26
		山梨県産スギ材から製造したCLTラミナの材質特性の解明	H26～28
		県産スギ厚板を利用した実用性に優れた矧ぎ合せ材料の製造	H26～28
	経営機械	森林GISの効率運用にむけた部課横断型GISのDB構築と経営解析手法の開発	H24～26
		木質燃料の品質等に関する課題の解決	H26～28
		放置竹林を利用したイノシシの誘導・捕獲に関する研究	H26～28
		ユビキタス技術・ビッグデータを用いた林業労働の安全化・効率化に関する基礎的研究	H26～27
	その他	富士スバルライン沿線緑化試験	S45～
県有林モニタリング事業		H19～	
松くい虫発生予察事業		S61～	
トウヒツツリハマキ発生予察事業		H14～	
カシノナガキクイムシ生息状況モニタリング		H24～26	
次世代リモートセンシングデータによる高精度な森林バイオマス推定方法の確立		H24～26	
害虫ヤノミガタチビタムシの環境を利用した被害軽減		H25～28	
森林環境税モニタリング調査		H25～	

(3) 衛生環境研究所(衛生業務課)

衛生環境研究所は、県関係部局との密接な連携のもと、県民の公衆衛生の向上と、より良い環境の保全を図るとともに、地域における健康危機管理に対応するため、衛生・環境行政の科学的、技術的中核として、調査研究、試験検査、研修指導及び情報の収集・解析・提供を行っています。

環境に関わるものとしては、大気汚染、水質汚濁、廃棄物、土壌汚染、騒音、振動、悪臭、環境放射能、温泉及び環境指標生物等の試験検査や調査研究、技術指導を実施しています。

研究テーマ	期間
山梨県における地衣類の分布	H24～26
湖沼の生物多様性・生態系評価のための情報ネットワーク構築	H24～26
クニマスの生態解明及び増養殖に関する研究	H24～26
山梨県内の環境水中における有機フッ素化合物の実態調査	H24～26
PM2.5の短期的/長期的環境基準超過をもたらす汚染機構の解明	H25～27
山梨県のPM2.5による汚染状況に関する研究	H25～27
「音色の目安」作り	H25～27
気象レーダーを用いた富士北麓地域での降水量の推定	H25～27
県内のスギ、ヒノキ花粉の飛散状況に関する調査	H26～
市街地を中心とする蚊類の発生状況調査	H26～
関東地方浮遊粒子状物質共同調査	H26～
県内水環境における外来底生生物調査	H26～
富士五湖の水質環境の経年変化について	H26～27
県内水環境における病原性自由生活アメーバの感染リスク評価	H26～27
山梨県内河川の付着珪藻群集組成からみた水質判定	H26～27
山梨県内の環境水中における有機フッ素化合物の追跡調査	H27
増富温泉のラドン経時変化	H27
県内土壌中の放射性物質濃度の実態調査	H27～28
クニマス保全並びに活用に関する研究	H27～29
富士五湖における水生植物調査	H27～29

(4) 工業技術センター(産業集積課)

工業技術センターは、県内企業の技術の高度化を支援し、その振興を図るため、研究開発、技術相談、依頼試験、講習会の開催、情報の提供などを行っています。環境問題については、公害発生防止など、企業の環境保全活動を支援するための巡回支援や技術相談対応、また環境負荷の少ないクリーンエネルギーに関する研究にも積極的に取り組んでいます。

試験研究機関	研究テーマ	期間
工業技術センター	アニオン交換型燃料電池用電解質膜の研究開発	H25～26
富士工業技術センター	ESD法による透明導電膜成膜技術に関する研究	H25～26

(5) 農業関係試験研究機関

ア 総合農業技術センター(農業技術課)

環境と調和した農業生産技術の開発のために、有機性資源の有効利用を目的に家畜ふん堆肥などの有機物由来肥料の活用試験や環境への負荷低減を図るため化学農薬・肥料を使用しない野菜類の有機栽培の実証を行うとともに、土壌の適正な養分管理技術について研究を行っています。

また、生物農薬の有効性の確認や有効かつ効率的な病害虫防除法の確立について検討するとともに、県内農耕地土壌の理化学性及び農薬の適正使用に関する調査も行っています。

イ 果樹試験場(農業技術課)

果樹の減農薬栽培技術として、耕種的・物理的防除、生物農薬、フェロモン剤等の化学合成農薬代替資材および天敵を用いた総合的な病害虫防除法に関する試験研究を行っています。

また、家畜ふん堆肥を中心とした有機物主体による環境負荷低減型施肥法について研究を行っています。

ウ 畜産試験場(農業技術課)

豚、鶏に関して、生産性・効率性を高める高品質安定生産技術、環境と調和した自然循環機能を活かした農業生産方式(糞尿の堆肥化時の悪臭低減技術など)確立のための研究を行っています。

試験研究機関	研究テーマ	期間
総合農業技術センター	栄養調整飼料の給与から得られた堆肥の施用効果	H26～28
	県内主要土壌の地力の推移と変化要因の把握	S54～
	有機物連用土壌における地力窒素の評価	S54～
	野菜の有機栽培に適した耕種的管理技術の確立	H26～30
	環境保全型農業における病害虫防除技術の確立	H27～29
	新農薬の効果査定	S54～
果樹試験場	果樹園における有機物資材を主体とした施肥法の開発	H22～26
	有機物を利用した環境負荷低減型施肥法の開発	H24～26
	果実への被害を生じない省防除体系の確立	H22～26
	果樹園における有機物資材を主体とした施肥法の開発	H27～29
	省力・環境負荷低減型防除技術の開発	H22～28
畜産試験場	豚ふん尿由来の環境負荷低減技術の確立	H25～28

エ 水産技術センター(花き農水産課)

魚類生息環境の保全に関する試験研究調査や希少魚に関する調査研究を行うと共に、関係者へ指導普及を行っています。

試験研究機関	研究テーマ	期間
水産技術センター	カワウ対策に関する研究	H25～27
	クニマスの生態解明及び増養殖に関する研究	H22～26
	希少魚類生息調査	H13～28

6 - 3 国際協力の推進

1 国際環境交流事業

富士山科学研究所は、本県の将来を見据え、予見・予防的な視点に立った環境行政の展開を支援することを基本姿勢として、「研究」「教育」「情報」「交流」の各機能を通じて、自然と人との生活が調和した地域の実現に向けて事業を展開しています。「交流」においては、富士山・環境をテーマとして人や情報の交流を活発にするため、県民の方々や地域との交流、国内外の研究者、研究機関との交流機会等を提供しており、平成26年度には山梨県富士山科学研究所公開講座として市民講演会と2回の国際シンポジウムを開催しました。

1 市民講演会

開催日 平成26年8月27日

テーマ 「山梨テロワールを語る夕べ

～フランス人研究者と語る富士山の魅力と火山防災～

開催場所 山梨県防災会館1階 やまなしプラザオープンスクエア

内容

富士山の火山防災と富士山に関わるステークホルダーの役割についての研究について、フランス人災害リスク研究者のマリー・オジャンドレ氏を外来研究員として迎え、富士山の魅力と火山防災についてフリーディスカッションを実施し、世界文化遺産に登録された『富士山』について考える機会としました。

1) 「火山としての富士山」

山梨県富士山科学研究所所長・火山噴火予知連絡会会長 藤井敏嗣

2) 「スリーピングビューティーと生きる～富士山の恵みと災い～」

リヨン第二大学 マリー＝オジャンドレ

2 国際シンポジウム

開催日 平成26年11月15日

テーマ 「安全で快適な富士登山に求められること」

開催場所 山梨県富士山科学研究所 ホール

内容

人がどのようにして高所に適応できるのか、あるいはできないのかといった事について基礎的なメカニズムから、実際の現場応用までを明らかにしました。基礎的な知識の伝播と現場での一致や乖離も含めて、

より多くの人に安全で快適な富士登山について考える機会としました。

1)人の高所環境における適応能力

アメリカ・コロラド大学コロラド・スプリングスキャンパス Andrew Subudhi

2)インターバル速歩で元気に富士登山

信州大学大学院医学研究科 富士山科学研究所特別客員研究員 能勢 博

3)富士山頂短期滞在時の循環反応

大阪市立大学都市健康・スポーツ研究センター 岡崎 和伸

4)現場の富士登山で起きていること

株式会社合力 近藤 光一

3 国際シンポジウム 2014

開催日平成 27 年 3 月 1 日

テーマ 「自然公園としての富士山- 6」 - 地域との協働による自然公園管理 -

内 容

これまで 5 回にわたるシンポジウムのまとめとして、富士山地域を自然公園としていかに適切に管理運営していくべきかについて講演とパネルディスカッションを行いました。興味ある例として米国アディロンダック州立公園に関する講演を軸に、パネルディスカッションでは日本の諸例を参考として富士山地域の協働型の管理運営について討論を行いました。

1)一般向け講演会(同時通訳)

「米国アディロンダック公園における地域制公園の管理」

アディロンダックマウンテンクラブ John D. Million

「北米における地域制公園について」

東京農工大学大学院農学研究院 土屋俊幸

2)パネルディスカッション

「富士山世界遺産」

山梨県知事政策局 市川 満

「世界遺産屋久島の管理～現場から見た奇妙な状況」

(有)屋久島野外活動総合センター 小原比呂志

「小笠原と知床・世界遺産の協働型管理」

環境省自然環境局 生物多様性センター 中山隆治

「山と渓谷社は、なぜ登山道整備にお金を出しているのか？」

(株)山と渓谷社、(公財)日本自然保護協会 神谷有二

「大雪山国立公園における登山道管理水準と協働型管理」

北海道大学大学院農学研究院 愛甲哲也